

■伊賀越えにおける半蔵の働きで、なぜ半蔵門の名前がついたのか？

服部半蔵正成は、伊賀忍者 200 名を集めて、追手や襲撃者を討ち、最大の難関の伊賀を越え白子まで家康を導いた。そして、家康は伊勢湾を渡り三河まで無事帰国した。

家康は半蔵の功績を讃え、これをきっかけに伊賀忍者を召抱え、江戸城西門の警護を行なわせ、門外には屋敷を作った。そして西門につけた名前が「半蔵門」である。

服部半蔵の功績で、家康は、伊賀忍者を召し抱え、江戸城西門の警護にあたらせたので、その西門の名前を半蔵門としたということである。警護・屋敷のことを強調すれば、分かってもらえたかもしれない。

■穴山梅雪が家康側に寝返ったのが理解できない。

諏訪家から帰り、武田家を継承した勝頼と不仲で老臣の横暴さを憎み

武田家の継承、甲斐の領土の確保を条件に信長、家康側に帰順した。

武田家の継承が重要な注目点である。

■長谷川秀一の功績

家康一行には、逃走路の案内役が重要な役割である。

長谷川秀一は、近江の信長直轄領（栗東）代官職を務めていた。地域の城主、領主との交渉役であったため、河内、大和、宇治田原、信楽との有力者や知合いがいて、道案内役の手配や依頼をした。